

取扱説明書

介助用ティルト&リクライニング型車いす

アクトモア みちる アクトモア みちるリリーフ スイングアウト仕様/エレベータリング&スイングアウト仕様




このたびは、本製品をご利用いただき、まことにありがとうございます。
この「取扱説明書」には、本製品を安全にお使いいただくための注意事項
や使用方法などを記載しています。

- 本製品をお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- 本製品は、改良などにより「取扱説明書」の内容と一部異なる場合もあります。
- ご不明な点がありましたら、当社までお問い合わせください。

表示とその意味

この取扱説明書では、次のような表示を記載しています。よく読んで内容を十分理解した上で、ご使用ください。

製品の取り扱いに際して生じる危険を未然に防止するため、安全上の注意事項をその危険の大きさの程度に応じて、次のように分類して表示しています。

表 示	意 味
 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡し、または重傷を負う内容について記載しています。
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡し、または重傷を負う可能性がある内容について記載しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性がある内容、および物的損害が発生する可能性のある内容について記載しています。

株式会社フロンティア

1 ご使用上の注意

⚠ 危険

【死亡または重傷を招くもの】

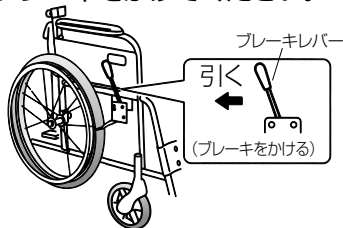


- 急な坂道を下る場合は、後ろ向きで下ってください。
前向きで下ると搭乗者が転落する可能性があります。
- 車道を通らないでください。
車いすは歩行者として扱われます。車道を通らず、必ず歩道、または道路の右側を走行してください。
- 定期的に圧迫を開放してください。
本製品のクッションは効果的に体圧を分散しますが、長時間同一姿勢の体位を続けると、床ずれの原因になります。
- スピードを出さないでください。
スピードが出ているときの急カーブ、急ブレーキは転倒するおそれがあり危険です。
- 溝や踏切の線路での脱輪、キャストの挟み込みには十分注意してください。

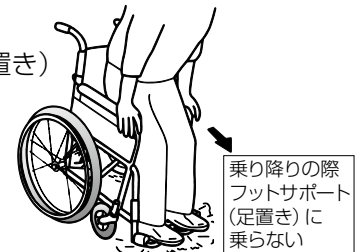
⚠ 警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 車いすから乗り降りしたり、介助者が離れるときは、必ず左右両輪の駐車ブレーキをかけてください。
車いすが動いて事故につながる可能性があります。



- フットサポート（足置き）に立ったり、直接体重をかけないでください。
フットサポート（足置き）が破損したり、バランスを崩し倒れるおそれがあります。



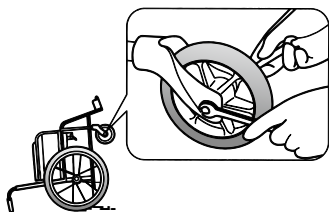
- 取り扱いが理解できないと思われる方が使用する際には、十分注意してください。
取扱説明書に書かれた内容が理解できないと思われる方（幼児や認知症の方など）が使用する場合には、保護者、介護者などが必ず取扱説明書に従った使用を確保し、本人による製品の誤動作、その他誤った使用方法による事故を未然に防いでください。
- エスカレーターでは使用しないでください。
介助者がいる場合でも、転倒などにより事故の原因となるおそれがあります。
- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道などの傾斜がある場所では、駐車ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒事故につながるおそれがあります。
- 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重を掛けしないでください。
レバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- 製品の使用者最大体重（積載物を含み100kg）を守ってください。
- フット・レッグサポートの回転・取り外し・取り付けは、必ずブレーキをかけた状態で行ってください。
- フット・レッグサポートを閉じたときは、必ずフックが固定されたことを確認してください。
- エレベーター式フット・レッグサポートを調整する場合は、必ず駐車ブレーキをかけ、手や足の挟み込みに十分注意して行ってください。
- 使用者が車いすに乗ったままエレベーター部の調整を行う場合は、足を挟み込んだり、股関節の可動域に支障をきたさないよう十分注意して行ってください。
- アームサポート（肘置き）を持って車いすを持ち上げないでください。
アームが外れ、ケガをするおそれがあります。持ち上げる際には車体（座面下）をお持ちください。
- 座面角度を調整する際、座面下に手を入れないでください。
座パイプとフレームの間に挟まってケガをするおそれがあります。
- 背もたれをリクライニングさせる際には、背もたれを支えながらリクライニングレバーを握ってください。
搭乗者の重さが加わりますので、背もたれが急に倒れるおそれがあります。

- 背もたれリクライニングや座面角度調整をした場合は、必ず介助者が付き添ってください。特に坂道での走行は、転倒に十分ご注意ください。
- 転倒防止バーを外したり、転倒防止バーの車輪を横向きのまま使用しないでください。転倒するおそれがあります。
- アームサポート(肘置き)を下げたまま走行しないでください。走行中、体が不安定になり危険です。
- 車いすは1人乗り用となっています。2人以上で座り、動かさないでください。
- 車いすを物品運搬や歩行の補助具としてなど車いす以外の目的で使用しないでください。
- 背もたれに重いものなどをかけないでください。転倒するおそれがあります。

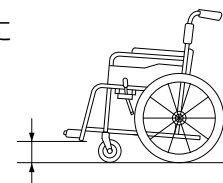
⚠ 注意

【軽傷または物的損害を招く可能性があるもの】

- ご使用前に主輪・キャスタ・ブレーキなどのネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



- フットサポート(足置き)は、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。低すぎると凹凸路面や障害物にフットサポート(足置き)が当たり、転倒する危険があります。



- 使用者が車いすに完全に座れているか確認してから走行してください。体の一部や衣服が主輪やキャスタに挟まれていると危険です。
- 車いすを組み立てる際、背もたれのフレームと折りたたみ用ノブネジの間に指を挟まないように注意してください。
- 走行中、体を乗り出さないでください。走行の安定を損ない危険です。
- 走行中、足がフットサポート(足置き)から落ちないようにしてください。
- アームサポート(肘置き)を上下させるとき、手や衣服を挟み込まないよう注意してください。
- 主輪のスポーク部分に指を差し込まないでください。ケガをするおそれがあります。
- 車いすの分解や改造はしないでください。強度や耐久性が低下し危険です。
- 車いすを火気に近づけないでください。シート部が燃えたり、熱くなった金属部でやけどをするなどのおそれがあります。

2 製品の特長

- お尻や太ももだけでなく背中にも体圧を分散できる座面角度調整(ティルト)機能と、背もたれの角度を調整できる背角度調整(リクライニング)機能で、安定した座位を保持できます。(P12参照)
- エレベーター&スイングアウト仕様はフット・レッグサポートのエレベーター機能で、ひざ下の角度調整ができます。(P5参照)
- 上下式アームサポート(肘置き)と、スイングアウト式フット・レッグサポートで、移乗が容易です。
- 「アクトモア みちるリリーフ」は、バックサポートの高さや奥行き前後調整機能付きで、利用者の身体状況に合わせた調整が可能です。
- 「アクトモア みちる」は、安楽姿勢がとりやすい枕形状のヘッドサポートです。「アクトモア みちるリリーフ」のヘッドサポートは、角度や前後調整機能付きで、食事などの姿勢をサポートしやすい形状です。

3 各部の名称

[アクトモア みちる]

ヘッドサポートフレーム

枕(ヘッドサポート)

ノブネジ

グリップ(押し手)

バックサポート(背シート)

介助用制動ブレーキ

グリップ高さ調整レバー

アームサポート(肘置き)

シートクッション

シート(座面)

レッグサポート
(ふくらはぎあて)

駐車ブレーキ

フットサポート
(足置き)

主輪

エレベーター式
フットレッグサポート

キャスタ

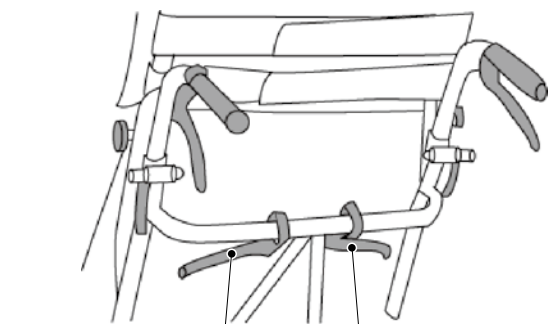
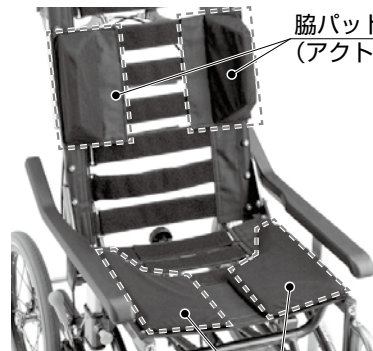
[アクトモア みちるリリース]

コンフォートヘッドサポート

脇パッド
(アクトモア みちるのみ)

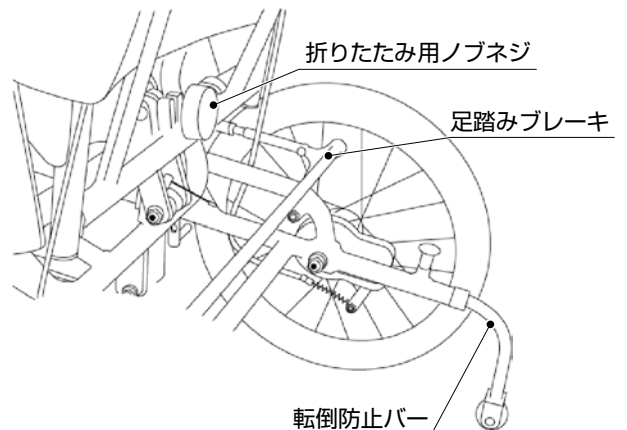
コンフォートバックサポート
リリース

前ズレ防止パッド



座面角度調整レバー
(ティルト機能)

背角度調整レバー
(リクライニング機能)



折りたたみ用ノブネジ

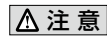
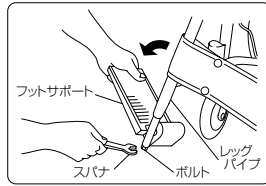
足踏みブレーキ

転倒防止バー

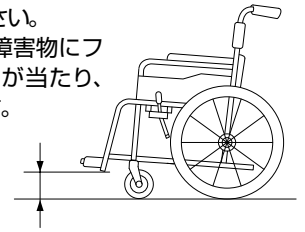
4 適合調整

フットサポート（足置き）調整のしかた

- ① フットサポート（足置き）を外側に少し開き、付属品のスパナでレッグパイプ（脚部）の先端ボルトをフットサポート（足置き）が少し動くところまでゆるめてください。
- ② フットサポート（足置き）の長さ調整を行い（無段階）、先端ボルトを完全に締めてください。



フットサポート（足置き）は、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上面より5cm以上でご使用ください。低すぎると凹凸路面や障害物にフットサポート（足置き）が当たり、転倒する危険があります。

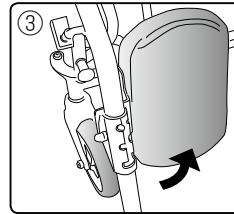
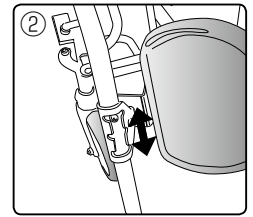
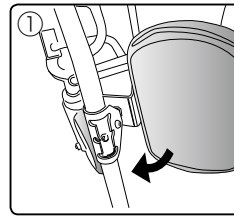


エレベータリング式フット・レッグサポートの調整のしかた

(1) レッグサポート（ふくらはぎあて）の上下調整のしかた

レッグサポート（ふくらはぎあて）は体の状態に合わせて、ふくらはぎに当たる部分を3段階に調整することが可能です。

- ① レッグサポート（ふくらはぎあて）を外側に回転させ、固定していた金具の合わせ位置（凹凸）を外します。
- ② レッグパイプ（脚部）の凸部をレッグサポート金具のスライド位置に合わせて、上下位置を変えることができます。
- ③ レッグサポート（ふくらはぎあて）を内側に回転させ、レッグサポート（ふくらはぎあて）の位置を固定します。



(2) レッグサポート（ふくらはぎあて）の角度調整のしかた

レッグサポート（ふくらはぎあて）の上下を持ち、矢印の方向に動かすことで角度調整ができます。



(3) エレベータリング角度調整のしかた

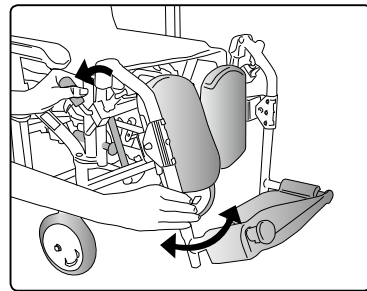
体の状態に合わせて、適切な角度に調整してください。

角度をつける（上方に動かす）場合

レッグパイプ（脚部）を上方に向かって引き上げます。

角度を戻す（下方に動かす）場合

レバーを手前に引きながら、レッグパイプを下方向に押し下げます。



バックサポート（背シート）調整のしかた

【アクトモア みちる】

- ① バックサポート（背シート）カバーを外します。
- ② 前ズレや横倒れが心配な場合は、バックサポート（背シート）の面ファスナーをゆるめて調整します。
- ③ 背中形状に沿うように調整し、座り心地を良くします。
- ④ 「脇パット」が面ファスナーで取り付けられていますので、必要に応じて移動してください。

△ 注意 バックサポート（背シート）をゆるめるときは、使用者の体をしっかり支えながら行ってください。バランスを崩すおそれがあります。

【アクトモア みちるリリース】

本体の位置調整（前後・上下・角度）や背もたれの張り調整ができます。

角度の調整方法

バックサポートの角度を微調整することができます。

- ① 調整金具の側面にあるネジ（2ヶ所）を六角棒スパナでゆるめ、本体の角度を調整します。
- ② 身体状況に合わせて調整し、角度の位置を決めてください。
- ③ 位置が決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。
- ④ 角度が変わらないように六角穴付き止めネジ（後面）を六角棒スパナで締めます。

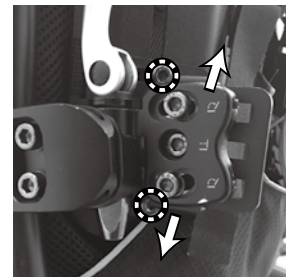


六角穴付き止めネジ（後面）

上下の調整方法

バックサポートの高さを上下7.5cmの調整ができます。

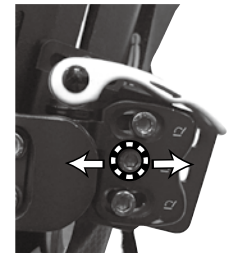
- ① 本体フレームの左右にあるネジ（2ヶ所）を六角棒スパナでゆるめ、本体を上下に動かし高さを調整します。
 - ② 身体状況に合わせて調整し、高さの位置を決めてください。
 - ③ 位置が決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。
- ※取り付け位置によっては、車いすのシート（座面）に置くクッションが後方へ落ちやすくなるので、付属しているクッションガードベルトを取り付けてください



奥行き前後の調整方法

バックサポートの奥行きを調整することができます。

- ① 調整金具側面にあるネジ2ヶ所を六角棒スパナでゆるめ、本体を前後に動かして奥行きを調整します。
- ② 身体状況に合わせて調整し、奥行き的位置を決めてください。
- ③ 位置が決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。



背張りの調整方法

- ① 本体の裏面にあるカバーベルトを外しカバーをめくります。
- ② 背張り調整部のワイヤーシステムがロックされていることを確認してください。
- ③ ワイヤーシステムのダイヤル部を時計回りに回すと背の張りを締めることができます。全3ヶ所のワイヤーシステムを身体状況に合わせて、背の張り調整ができます。
※空回りする場合は、ワイヤーシステムを「カチッ」と鳴るまで押し込んでください
- ④ 背の張りをゆるめるときは、ワイヤーシステムのダイヤル部を深くつまみ、親指で浮かせるようにロックを外してください。再度背の張り調整する場合は、ワイヤーシステムを「カチッ」と鳴るまで押し込んでからダイヤルを回してください。



シート（座面）調整のしかた

- ① クッションを外します。
- ② 前ズレが心配な場合は、シート（座面）の面ファスナーをゆるめて調整します。
- ③ 「前ズレ防止パット」が面ファスナーで取り付けられていますので、必要に応じて移動してください。



△ 注意

シート（座面）のゆるめすぎに注意してください。
シート（座面）下のフレームに体が当たり危険です。

上下式アームサポート（肘置き）の調整のしかた

- ① 車いすの駐車ブレーキを両輪に掛けておきます。

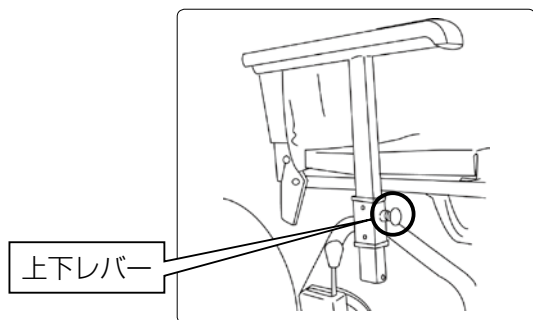
△ 警告

車いすが動きだし大変危険ですので、必ずブレーキを掛けてください。

- ② シート（座面）近くの上下レバーを引きながら、アームサポート（肘置き）を上下させます。
シート（座面）と同じ高さまで下がるほか、シート（座面）から21、23、25、27cmの4段階調整ができます。

△ 注意

アームサポート（肘置き）を上下させるとき、衣服や手を挟み込まないよう、注意してください。



ヘッドサポートの調整のしかた

[アクトモア みちる]

枕裏面の面ファスナーで位置を変えることにより、リクライニング角度に合わせて、頭部の前傾・後傾を適度に調整できます。

ポイント 凸が高いほうを首側にした方が、違和感なくご使用いただけます。

△ 警告

包装用ポリ袋は、製品を取り出した後、穴をあけて廃棄してください。ポリ袋を誤ってかぶったりすると、窒息する危険があります。

△ 注意

- 常に乾燥した清潔な状態でご使用ください。
カバー洗濯後など、十分乾燥していない状態ではカビの発生や皮膚のトラブルの原因になります。
- 低温な環境下(10℃以下)では、ウレタンフォームが硬くなる場合があります。
室温になじませてからご使用ください。
- 製品を取り出した際に臭いが気になる場合は、日陰で風に十分にさらしてからご使用ください。

[アクトモア みちるリリース]

頭部の位置に合わせて上下・前後・回転、ヘッドサポート部の左右角度の調整ができます。

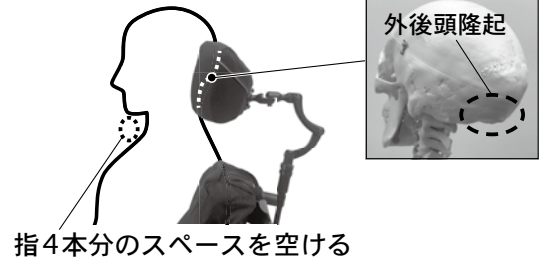
ポイント

- 外後頭隆起の下部からサポートするようにヘッドサポートを調整します。
- 頭部の位置は、あごの下に指4本分(軽くうなずく程度)をめやすにすると、食事が摂りやすい角度になります。

△ 注意

フレームのすき間に指や手を挟まないように注意してください。

外後頭隆起を下からサポート

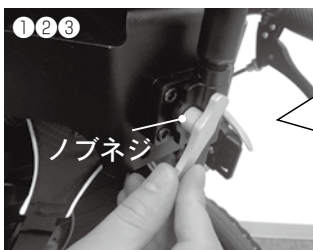


高さの調整

- ① 支柱受けにあるノブネジをゆるめめます。
- ② 頭部の位置にあわせてヘッドサポートの高さを調整します。
- ③ 調整が終わったら、ノブネジをしっかりと締めて固定します。

本製品を抜き差しするとき、高さ固定金具により一度決めた位置で固定できます。

- ④ 高さ固定金具を六角棒スパナでゆるめめます。
- ⑤ 支柱受けに当たるところまでスライドさせてください。
- ⑥ 高さ固定金具のネジを確実に締めて固定します。



支柱受けの位置を替えることで高さを2.5cm調整できます

リリース用
【ヘッドサポートベース裏面】

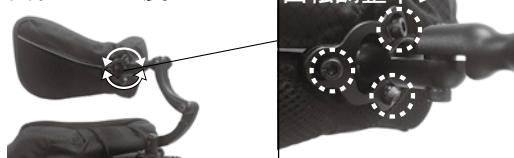
【ヴィスコ本体フレーム裏面】



頭部の回転調整

- ① 頭部の回転調整ネジ3ヶ所を六角棒スパナでゆるめめます。
- ② 頭部の位置にあわせて角度を調整します。
- ③ 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。

回転：360度



上下：80度



左右：45度



前後左右の回転調整

- ① 5ヶ所の調整ネジを六角棒スパナでゆるめます。
- ② 頭部の位置にあわせて前後左右の位置を調整します。
- ③ 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。



左側からサポート



右側からサポート



前方でサポート

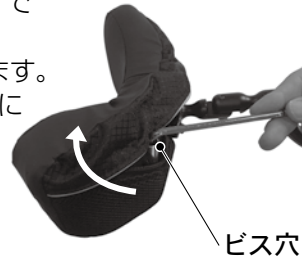


後方でサポート



ヘッドサポート部の左右角度調整

- ① ヘッドサポートの裏にあるファスナーを空けてカバーをめくります。
- ② 左右2ヶ所の調整ネジを六角棒スパナでゆるめます。
- ③ 頭部の位置に合わせて角度を調整します。
- ④ 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。



左右それぞれ10度ずつ
10段階に調整可能



グリップ(押し手)高さの調整のしかた

- ① グリップ高さ調整レバー (P4参照) を引き上げます。
- ② グリップ高さ調整レバーを回転させ、ゆるめます。
- ③ グリップ(押し手)の高さを、押しやすい位置に調整します。(無段階)
- ④ 位置が決まったら、その高さを保持しながら、グリップ高さ調整レバーを回転させ、締めます。
- ⑤ グリップ高さ調整レバーを倒します。

ポイント グリップ高さ調整レバーが硬くて倒れない場合は、回転させ少しゆるめると倒れやすくなります。

- ①～⑤の手順で、もう片方のグリップ(押し手)も調整します。

5 ご使用前の準備と点検

ご使用前に以下の点を確認してください

① 介助用制動ブレーキの確認

- 介助用制動ブレーキを握り、ブレーキが利くこと。
- ブレーキケーブルがたわんでいないこと。
ブレーキの利きが悪いときには、当社へ連絡してください。

② 駐車ブレーキの確認

- 駐車ブレーキが主輪をロックすること。
ブレーキの利きが悪いときには、当社へ連絡してください。

③ 転倒防止バーの確認

- 転倒防止バーの車輪部分が地面を向いているか確認してください。
転倒防止バーを外したり、車輪部分が横を向いていると、転倒防止の効力が得られません。

△ 警告 転倒防止バーを外したり、車輪を横向きのままにしないでください。転倒するおそれがあります。

④ フットサポート(足置き)の高さの確認(P5参照)

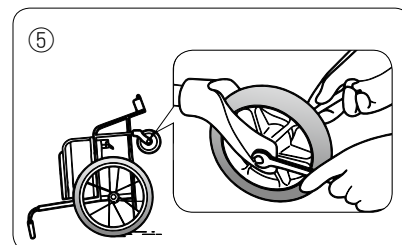
- フットサポート(足置き)の先端の高さは地面より5cm以上で使用してください。
低すぎると凹凸路面や障害物にフットサポート(足置き)が当たり、転倒する危険があります。

⑤ キャスタのネジのゆるみの確認

- キャストのネジがゆるんでいないこと。
ゆるんでいるときは、増し締めをしてください。

⑥ 主輪のゆるみの確認

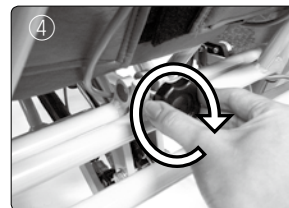
- 主輪にガタつきがないこと。
ガタついているときは、ただちに使用を中止し、当社へ連絡してください。



6 ご使用方法

組み立てかた

- ① 車いすの駐車ブレーキを両輪に掛けます。
- ② 折りたたみ用ノブネジを持ち上げながら、背もたれを起こします。
- ③ 折りたたみ用ノブネジをいったんゆるめて手前に倒します。
- ④ 折りたたみ用ノブネジを締めて固定します。



- △ 注意** ●折りたたみ用ノブネジを持ち上げずに背もたれを起こすと、ノブネジが破損することがあります。
●背もたれを起こす際、背もたれのフレームと折りたたみ用ノブネジの間に指を挟まないよう注意してください。

- ⑤ フット・レッグサポートまたはエレベータリング式フット・レッグサポートを取り付けます。

【アクトモア みちる】

- ⑥ 左右のノブネジをゆるめ、ヘッドサポートフレームを取り付けます。
- ⑦ 左右のノブネジを締めて固定します。

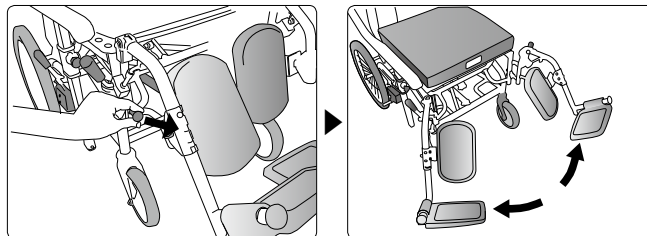
【アクトモア みちるリリーフ】

- ⑥ ヘッドサポート支柱金具にヘッドサポートを差し込みます。
- ⑦ ノブネジを締めて固定します。



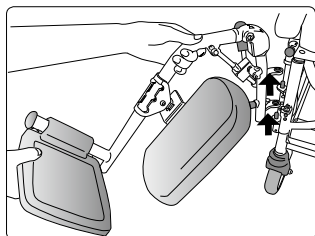
スイングアウトをするとき

フット・レッグサポートまたはエレベータリング式フット・レッグサポートの回転レバーを引きながら、外側に回転させます。



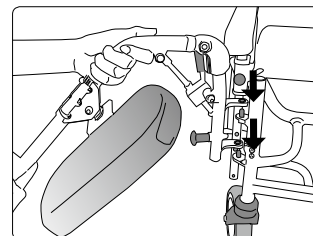
取り外すとき

スイングアウトした状態から、フット・レッグサポートまたはエレベータリング式フット・レッグサポートを垂直に持ち上げます。



取り付けるとき

本体側2つのピンにフット・レッグサポートまたはエレベータリング式フット・レッグサポートの穴をはめ込み内側に回転させて、固定します。



⚠ 警告

- フット・レッグサポートのスイングアウト・取り外し・取り付け時は、必ず駐車ブレーキを掛けた状態で行ってください。
- 走行する前は、回転レバーが確実にロックされていることをお確かめください。
- 必ずフット・レッグサポートを取り付けた状態でお使いください。足がキャストに当たり危険です。
- フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。バランスを崩し、倒れて危険です。

⑧ アームサポート(肘置き)を左右とも持ち上げます。(P7参照)

⚠ 注意

アームサポート(肘置き)を上下させる際、衣服や手を挟み込まないように注意してください。

⑨ クッションは「FRONTIER」マークがひざ裏になるように設置してください。

たたみかた

- ① クッションを取り外します。
- ② ヘッドサポートフレーム(アクトモア みちる)またはヘッドサポート(アクトモア みちるリリーフ)を取り外します。
- ③ アームサポート(肘置き)を左右とも、一番下まで下ろします。
- ④ フット・レッグサポートまたはエレベータリング式フット・レッグサポートを取り外します。
- ⑤ 背もたれを固定している、折りたたみ用ノブネジをゆるめ、ノブネジを持ち上げながら、背もたれを前側にシート(座面)と平行になるまで倒してください。

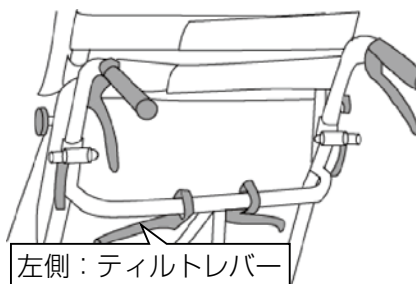
転倒防止バーの取り付け

- ① 転倒防止バーを本体フレームにピンが固定されるまで差し込みます。このとき、転倒防止バーに付いている車輪が地面側になるようにしてください。
- ② 同様にもう一方の転倒防止バーも取り付け、左右両方に転倒防止バーを設置してください。



座面角度調整のしかた

座面角度調整レバー（ティルト機能）

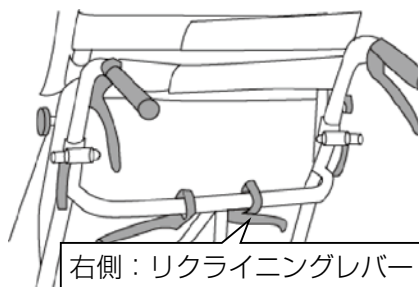


座面角度調整レバーを握りながら倒すと座面角度が変わります。

- △ 警告**
- 座面角度を調整する場合は、必ず転倒防止バーをおろしてください。後方に転倒するおそれがあります。
 - 座面角度を調整する際、座面下に手を入れないでください。
座パイプとフレームの間に挟まってケガをするおそれがあります。
 - 座面角度を調整した場合は、必ず介助者が付き添ってください。特に坂道での走行は、転倒に十分注意してください。

背角度調整のしかた

背角度調整レバー（リクライニング機能）



リクライニングレバーを握りながら倒すと背もたれ角度が変わります。

- △ 警告**
- 背角度（リクライニング）を調整する場合は、必ず転倒防止バーをおろしてください。後方に転倒するおそれがあります。
 - 背角度（リクライニング）させる際には、背もたれを支えながらリクライニングレバーを握ってください。
利用者の重さが加わりますので、車いすが急に倒れるおそれがあります。
 - リクライニングした場合は、必ず介助者が付き添ってください。特に坂道での走行は、転倒に十分注意してください。

移乗のしかた

1人で車いすに乗り移るとき

※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください

①車いすの駐車ブレーキを両輪にかけておきます。

⚠警告

車いすが動きだし大変危険ですので、必ず駐車ブレーキをかけてください。

②フットサポート(足置き)を両方とも上げます。

③乗り移る側のアームサポート(肘置き)を一番下まで下げ、フット・レッグサポートをスイングアウトします。

⚠警告

危険ですのでフットサポート(足置き)の上に乗らないでください。

④車いすをしっかりと保持し、ゆっくり乗り移ります。

⑤アームサポート(肘置き)を上げ(金具の固定を確認)、フット・レッグサポートを回転させながら戻します。(回転レバーの固定を確認)

⚠注意

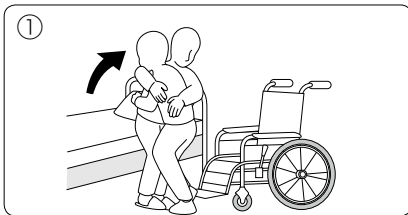
アームサポート(肘置き)を上下させるとき、衣服や手を挟み込まないよう、注意してください。

⑥フットサポート(足置き)を下ろして両足を乗せます。

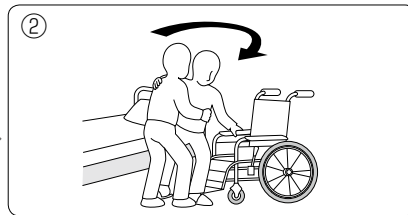
介助者と車いすに乗り移るとき

※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください

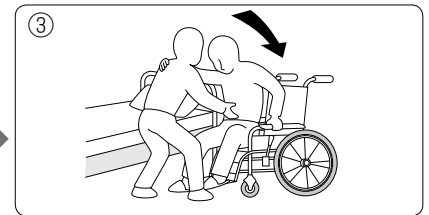
車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。



①介助者が片足を相手のひざの間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。



②介助者のひざで相手を支えながら、車いすの方へお尻を向けます。



③ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。
※「いち、にのさん」と声をかけながらお互いに協力しましょう

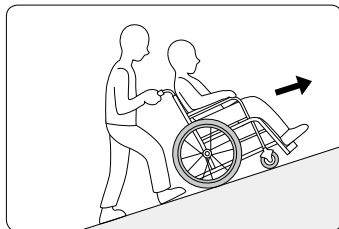
⚠注意

転倒防止に十分配慮してください。(車いすの後方を支えるなどの方法があります。)

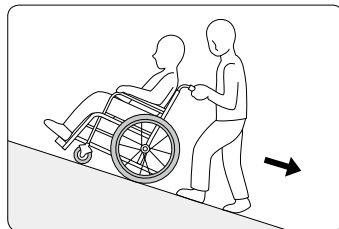
外出時の注意点

車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”と“安全ベルト着用”が基本です。

坂道

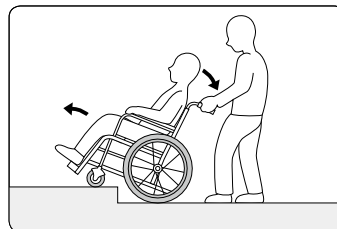


〈上り坂〉
押す人は体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。



〈下り坂〉
坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。また、安全ベルトを必ずご利用ください。

段差のある場所



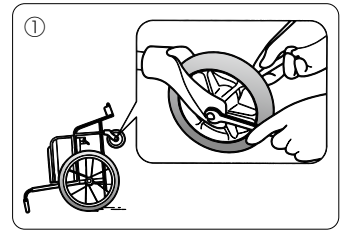
〈上がるとき〉
キャストを上げて進み、続いて主輪を押し上げます。

〈下るとき〉
後ろ向きでまず主輪を下ろし、キャストを上げたまま後進し、ゆっくりと下ろします。
※ 階段では車いす全体を持ち上げてください

7 保守・整備

日常のお手入れ

- ご使用前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。
 - ① キャスタ・主輪・ブレーキなどのゆるみを点検し、ゆるんでいるときは、増し締めをしてください。
 - ② ブレーキの利き具合が悪いときは、当社までお問い合わせください。
- 車いすは湿気に弱いため、水のかかる場所などに放置しないでください。
- フレームはときどき乾いた布でふいて、汚れを除いてください。
- シート（座面）が汚れたときには、強く絞ったタオルなどですぐにふき取ってください。



アクトモア みちる（専用オリジナル枕・オリジナルクッション3）

- カバー…洗濯できます。

カバーの洗濯表示に従い、水洗いかドライクリーニングをしてください。生地には、防水加工（ウレタンフィルム）のほか、消臭加工、吸汗・速乾・吸放湿加工、静電気防止加工、汚れ除去加工が施されています。指定の洗濯方法以外で洗濯した場合、これらの加工の効果がなくなったり、著しく低下することがあります。
- 中 材…洗濯できません。

濡れてしまった場合は、風通しの良いところで陰干ししてください。
メッシュの中袋は、水洗いができます。

アクトモア みちるリリース（コンフォート バックサポート リリース/ヘッドサポート）

【フレーム部】

汚れたときは、水を含ませた布を固く絞り、ベース部の表面の汚れをふき取ってください。

【パッド部】

- カバー…洗濯できます。水洗いをしてください。
- 中 材…洗濯できません。

コンフォートバックサポートリリースのカバーは防水仕様ですが、濡れてしまった場合は、風通しの良いところで陰干しをしてください。

8 ガススプリングについて

本製品には、背もたれリクライニングと座面角度調整にガススプリングを使用しています。
ガススプリングの取り扱いについては下記事項に注意してください。

1. 取扱上の注意

⚠ 注意

- ガススプリングへの注油は一切不要です。注油するとシールの耐久性をなくし油もれの原因となります。
- 衝撃を加えることは絶対に避けてください。油もれ、作動不良、破損の原因になります。
- 分解することは絶対に避けてください。高圧ガスが封入されていますので、分解すると非常に危険です。
- 通常の使用範囲とは異なる方向に荷重をかけたり、ねじるように荷重をかけた場合、ロッドが曲がり、作動不良の原因となります。
- ピストンロッドおよびシリンダーに打ち痕をつけますとシールの寿命を縮めたり、作動不良の原因になります。
- 周囲の気温が高すぎる場所、または低すぎる場所での使用は注意してください。
- 10℃～80℃の範囲内で使用してください。
- 水のかかる場所、ホコリの多い場所での使用は避けてください。

2. 廃却方法

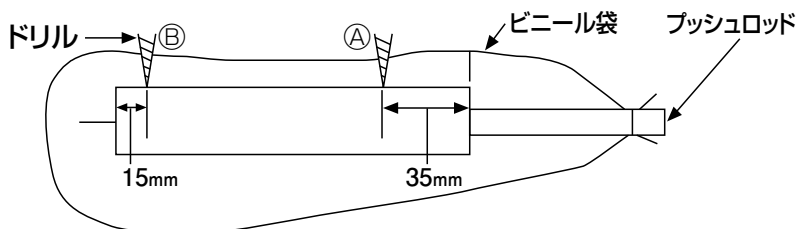
⚠ 危険

廃却する際は、下記の点を守ってください。この製品は、窒素ガスが高圧で封入してあるため、ガスを抜かずに処理すると、爆発によりケガをすることがあります。

- 押しつぶさないでください。
- 切断しないでください。
- 下記の図以外の場所に穴をあけないでください。
- 火に入れないでください。

廃却の手順

- ① プッシュロッドを押し、ガススプリングを最大限に伸ばします。
- ② ビニール袋をかぶせ、その上から2～3mmのドリルでⒶの穴をあけ、ガス・油を抜いたあとⒷの穴をあけてください。(必ず、ⒶⒷの順を守ってください。)
- ③ ビニール袋を使用しない場合は、油や切粉が飛びますので十分注意してください。
(この場合メガネをかけて作業してください。)



左図の要領で穴をあけガス抜きをしてから廃却してください。

9仕様

製品名	アクトモア みちる		アクトモア みちるリリース	
仕様	スイングアウト仕様	エレベーターティング&スイングアウト仕様	スイングアウト仕様	エレベーターティング&スイングアウト仕様
本体外形寸法 (全幅×全長×全高)	58×112×125cm	58×114×125cm	58×112×95.5 ～109cm※	58×114×95.5 ～109cm※
座幅	42cm			
前座高	44cm			
座奥行き	38cm		36.5～42cm	
背角度調整 (リクライニング機能)	90～120度			
座面角度調整 (ティルト機能)	0～20度			
アームサポート(肘置き)	上下式 座面より 21～27cm(2cm刻み4段階)			
重量	22kg(22.4kg)	24.1kg(24.5kg)	24.7kg	26.8kg
キャスト径	6インチ(ソフトタイヤ)			
主輪径	16インチ(ノンパンクタイヤ)			
使用者最大体重 (積載量も含む)	100kg			
材質	本体フレーム	アルミ		
	バックサポート	シート：ポリエステル、中材：ウレタンフォーム	カバー：ポリエステルニット、中材：ウレタンフォーム	
	ヘッドサポート	カバー：ポリエステルニット、中材：ウレタンフォーム	カバー：ポリウレタン・ナイロン、中材：ウレタンフォーム	
	シートクッション	カバー：ポリエステルニット、中材：ウレタンフォーム		
専用付属品	オリジナル車いす用クッション3、 専用オリジナル枕、転倒防止バー		オリジナル車いす用クッション3、 コンフォートバックサポートリリース、 コンフォートヘッドサポート、 転倒防止バー	

■製品の仕様は予告なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。

※ヘッドサポートを取り外した寸法です

株式会社フロンティア

フクシのクトハ

フリー
コール **0120-294-518**

千葉本社 福祉本部 〒261-0002
千葉県千葉市美浜区新港42-4
TEL.043-301-8338



●アフターサービスのお問い合わせ

取扱店